

那覇市福祉のまちづくり条例④

【市の責務】第 3 条 市は、市民及び事業者との連携と協力の下に、福祉のまちづくりに関する基本的かつ総合的な施策を策定し、これを実施する責務を有する。

- 2 市は、自ら生活関連施設を設置する場合は、高齢者、障がい者等その他の関係者の意見を聞くものとする。
- 3 市は、自ら設置し、又は管理する生活関連施設を、高齢者、障がい者等が安全かつ快適に利用できるよう、率先してその整備を進め、その機能を維持し、又は保全するものとする。
- 4 市は、生活関連施設に安全で快適な利用の妨げとなるような物品の放置等の事由を発見したときは、速やかにその事由の排除に努めるものとする。
- 5 市は、自らが主催又は共催する特定事業において、高齢者、障がい者等が安全かつ快適に参加できるよう、率先して手話通訳の配置等の支援事業を進めるものとする。

市の責務として5つの項目をあげています。新庁舎のやセルラースタジアム那覇の建設では、様々な団体の意見を伺い、UDの導入や配慮をしてもらえました。物品放置やイベント開催時の配慮など、まだ十分ではない部分もあります。

福祉のまちづくりの課題として、関連する部署や団体との連携があげられますので、周知など広報活動と合わせ、取組やすいようマニュアルづくり等を検討中です。

h26年 福まちの取り組み

- ☆福祉教育 こどもセミナー（6校）
- ☆福祉教育 障がい当事者講話（3校）
- ☆サービス介助セミナー（市民・企業向け）
- ☆福祉のまちづくり推進員会議
- ☆福まちだよりの発行
- ☆福まちのパネル展（2月3日～2月13日）



発行元 那覇市福祉政策課 Tel.862-9002 fax.862-0383

福祉のまちづくり情報

2014

「福まちだよりの」

バリアフリーでみんなが笑顔のまちづくり

那覇市ではすべての市民が住み慣れた地域で、安心して暮らすことができるよう「福祉のまちづくり条例」のもと、「心のバリアフリー」を推進する取り組みを行っております。

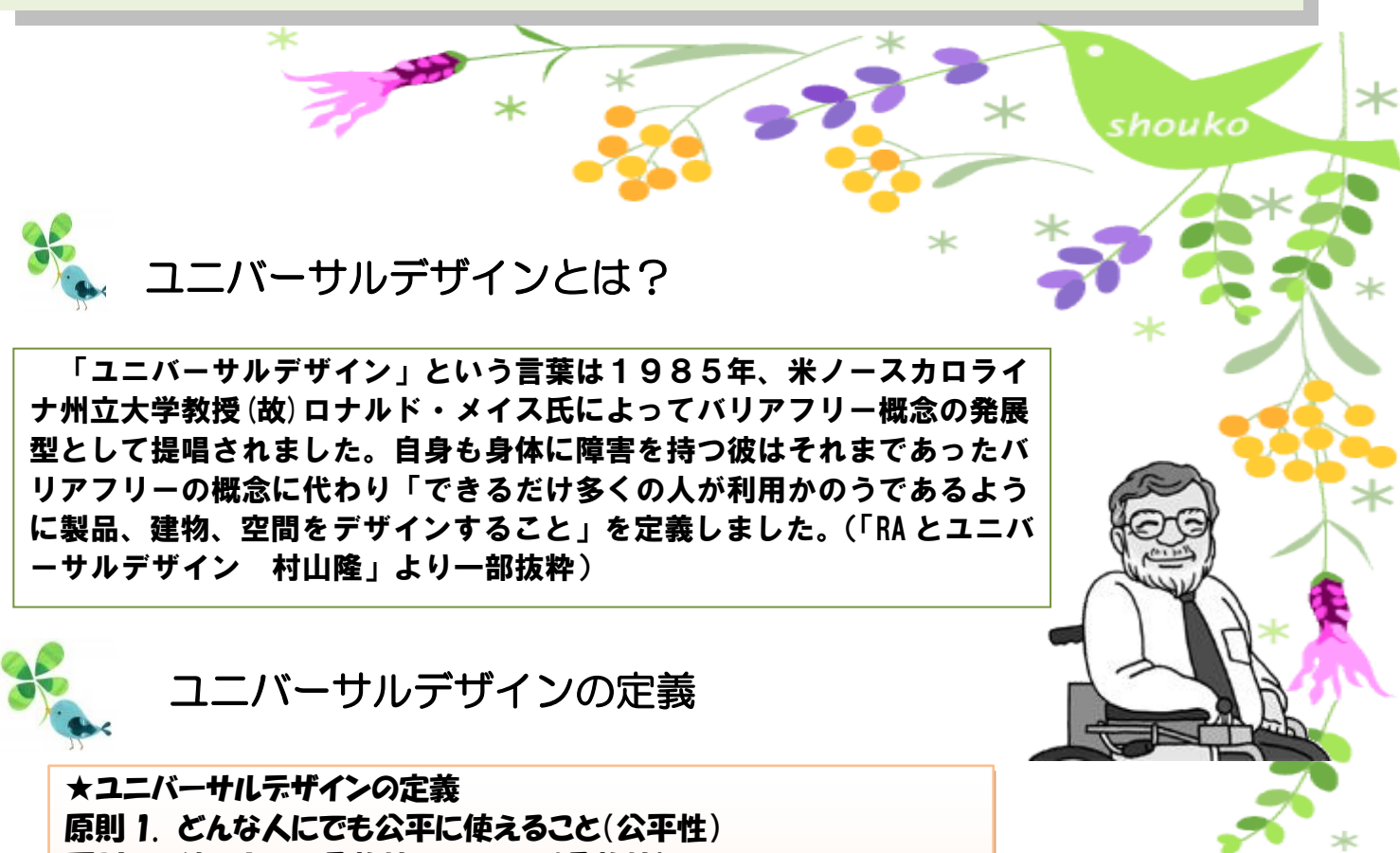


- 今号の紙面
- ★パネル展の様子②
- ☆ユニバーサルデザイン
- ★福祉のまちづくり条例④「市の責務」



平成26年度第1回福祉のまちづくりパネル展を開催②

テーマ：心のバリアフリーとユニバーサルデザイン



ユニバーサルデザインとは？

「ユニバーサルデザイン」という言葉は1985年、米ノースカロライナ州立大学教授(故)ロナルド・メイス氏によってバリアフリー概念の発展型として提唱されました。自身も身体に障害を持つ彼はそれまであったバリアフリーの概念に代わり「できるだけ多くの人々が利用できるよう」に製品、建物、空間をデザインすること」を定義しました。(「RAとユニバーサルデザイン 村山隆」より一部抜粋)



ユニバーサルデザインの定義

- ★ユニバーサルデザインの定義
- 原則1. どんな人にも公平に使えること(公平性)
 - 原則2. 使う上での柔軟性があること(柔軟性)
 - 原則3. 使い方が簡単で自明であること(直感性)
 - 原則4. 必要な情報がすぐに解る事(認知性)
 - 原則5. うっかりミスを許容できる事(安全性)
 - 原則6. 身体への過度な負担を必要としないこと(能率性)
 - 原則7. アクセスや利用のための大きさと空間が確保されていること

バリアフリーは障害者・高齢者を対象に、生活する上でバリア(障壁)を無くしていこうという考えから生まれたもので元々は住宅建築用語でした。
 一方、ユニバーサルデザインは最初からそのバリアを無くし、誰もが使いやすいデザインで作ろう、すでに使いやすく作られているものをユニバーサルデザインとしましょう、という考えから生まれたものです。
 しかし、ユニバーサルデザインは決して完璧なデザインではありません。誰かの能力に合わせて作ったものが、実は誰かにとっては使いづらくなってしまう、ということも考えられます。「このデザインとこのデザインだったらこちらのほうが使いやすい人が多いだろう」という、あくまでも「比較級」の考え方なのです。
 (UD 資料館より一部引用)

ミニ体験コーナー



ノルディック
・ウォーク体験

視覚障がい者・車イス操作体験ほか

今回のパネル展では、福祉のまちづくり推進員の山城さん(ノルディックウォーク連盟)と喜久里さん(脳文庫・ケアフィット共育機構)にご協力いただき、「ミニ体験コーナー」をやってみました。子どもからお年寄りまで楽しめるノルディックウォーキングと視覚障がい者への案内の仕方や車イス操作などなど。とても寒い時期でしたが、来庁した市民のみなさまに 楽しく体験いただけました～。

福まち推進員提案その後・・・

☆現在進行中☆
 『ホテルを飛ばそうプロジェクトX』(大浅田推進員より提案)
 地域の様々な団体(民生委員さん、自治会、協働大使、企業さんほか)と協力し、「認知症講座」を開催。みなさん身近な問題なので、企画の段階から多くの方にご協力いただき、一体感がうまれたようです。続いてCGC活動。公園周辺のお掃除をして、共に汗をかき今後の活動に繋げる予定。ホテルが飛び交う日も近い!?☆
 『ユニバーサルデザイン公園の整備』(親川推進員より提案)
 公園は災害時には避難所にもなります。『すべての人が利用し、避難できる防災機能をもつ公園づくり』が出来るよう、公園等バリアフリー化推進協議会を立ち上げ、マニュアルを作成。現在、各自治体へ配布中です。